

一般の方へ

川崎病にかかったことのある方の新型コロナウイルスワクチン接種についてQ & A—第2報—（2022年2月21日現在の考え方）

一般社団法人 日本川崎病学会

川崎病にかかったことのある方の新型コロナウイルスワクチン接種についてQ & A（2021年8月14日の考え方）についてホームページに記載されています
http://www.jskd.jp/pdf/20210814_Q&A.pdf。

今回、2022年3月から5歳～11歳小児への新型コロナワクチン接種が開始されますので、川崎病にかかったことのある方へのQ & Aを追加しました。

それにあたっては下記のホームページに情報が記載されていますのでご参照ください。

- ✓ 日本小児科学会「5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=404
- ✓ 日本小児科学会「新型コロナウイルスワクチン接種に関する、小児の基礎疾患の考え方および接種にあたり考慮すべき小児の基礎疾患等」
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=409
- ✓ 日本小児循環器学会「5～11歳の小児への新型コロナウイルスワクチン接種に対する考え方」
<https://jspccs.jp/covid-19/families/vaccination/>

1. 最近、川崎病にかかって免疫グロブリン療法などの治療を受けました。いつから、新型コロナウイルスワクチンを接種できるでしょうか。

回答：川崎病にかかったあと、いつワクチンを接種できるかという科学的根拠のあるデータはありません。生ワクチンではないので川崎病が完全に回復したあとであればワクチン接種は可能と考えられています。

2. 大量免疫グロブリン治療を受けた影響はありませんか。

回答：通常の予防接種では、生ワクチンは6か月以上あけて接種することが推奨されています（https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/VIS_05sesshu-tyuui.pdf）が、新型コロナウイルスワクチンは生ワクチンではないので影響受けないと考えられています。新型コロナウイルス感染流行中のアメリカでは、小児の重症な疾患である多系統炎症性症候群もワクチンによって発症を予防できることが証明されており、受けられる状態になったら、早く接種するように勧められています。

以上